

16名の先生方と一緒に学び合いました。
(保育所(園)7名・幼稚園2名・認定こども園
4名・小学校3名)

令和8年2月2日(月)
第21回研修会(教育・保育の質向上分野)
往還型研修※【全3回シリーズ】第3回を開催しました。

1.公開保育

宇治市立ひがしうじ幼稚園

4歳児 もも組 担任 高橋 ゆうこ

【往還型研修※】とは
研修で学んだ内容を現場で実践し、
その実践を次の研修で持ち寄って
行う研修スタイルです。研修と実践
の往還を繰り返す中で、保育の質の
向上を目指します。

※ この研修通信は、研修会にご参加いただいた皆様はもとより、園内の体制等でご参加いただけなかった皆様にも研修会での学びの一端が伝わることを願って、研修会終了後の参加者による『振り返りシート』をもとにまとめたものです。

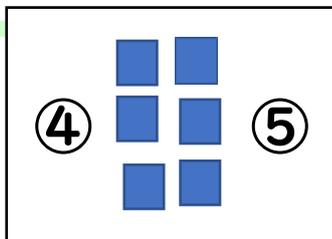
第3回の研修方法についてご紹介します。

【公開保育】

- ① 参加者は、グループごとに指定された対象児を観察する。
- ② 対象児が、『挑戦している場面』や『意欲をもって取り組んでいる場面』『夢中になっている場面』『やりたいと思った瞬間』など対象児の心が揺れている姿を見取って、付箋に記録する。

【グループ協議】

- ③ ②の付箋を模造紙の中央に貼りながら紹介し合う。(左右は空けておく)
- ④ その姿が見られた要因について、どんな環境や保育者の関わりがよかったのかということ話し合っ
て付箋の貼ってある左側の空間に書く。
- ⑤ 今日の対象児の姿から、さらにこんな環境や関わりがあるとよいかもという提案について話し合っ
て付箋の貼ってある右側の空間に書く。



2.グループ協議

テーマ『子どもと共につくる教育・保育とは』



グループ協議中に、仲間の発言で
心に残ったこと（参加できなかった
仲間に知らせたいこと）



環境

- **遊び込める**環境作り
- 子どもたちの**やりたい思いが実現できる**環境を用意する。
- 自分で遊びたいものを**選択できる**豊富な環境
（子どもの見えるところに置いておく）
- 環境を**整え過ぎない**
- 自分のやりたい遊びに**没頭できる**環境を大切にする。
- その子自身が**安心できる**環境作り、そして子どもは何を願っているのか、迷っているのか、そこに**気づける**保育者の存在が大切であること



- あそびを展開していく中で**きっかけとなる**
大人の言葉がけ、関わり
- 大人が**広げる力**を持つことが大切であること
- 子どもがしたいと思っていることを**受け止める**ことで
自信や嬉しさにつながる。
- ※**余白のある関わり**が、子どもの**ありのままの姿を
引き出す**ことにつながる。

大人の存在・ 関わり



対象児を 決めて観察

- 一人の子どもに焦点をあてて見ることで子ども達の**何気ない関わりが見えた。**
- 対象児一人をじっくりと見ることができ、グループ内で**自分とは違う子どもの捉え方や見方**があり、学びにつながった。

往還型研修では、公開クラスの保育者だけが往還的に学ぶのではなく、全ての参加者が研修会当日の学びを各園校に持ち帰り、次の研修まで、教育・保育実践と省察を繰り返してきました。

また、その中で特に気付きや学びの大きかった実践について、事例として記録し、次の研修会でグループの仲間に報告し合いました。

※**余白のある関わり** は、参加者の一人である『みんなのき黄檗こども園の畑中智貴先生』の事例の考察に出てきた言葉です。この言葉の意味するところが皆さまに伝わるように事例を配布することを田中園長先生や畑中先生がご快諾くださいましたので、別紙資料として送付いたします。各自でじっくりお読みいただきますとともに園校内での研修等で、ぜひご活用ください。

3. 指導助言



京都教育大学 教育学部 幼児教育科
准教授 佐川 早季子 先生

※ 講師資料
別紙

『宇治市 往還型研修③
ひがしうじ幼稚園の保育より』

講師の先生のお話の中で、
心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

精神 (スピリット)

- スピリットを汲む、ということは本当に大切だと感じます。それは本質を理解できているかということにつながると思う。対立ではなく、共同体として子どもたちの環境を豊かにしていきたいと感じる。
- “実践事例から受け取るもの” 精神を汲むことで自身の状況に適した独自の実践をつくること
- コピーでなく、スピリット、エッセンスが大事
- 往還型研修で実践の精神(スピリット)を汲むことが大切=自分なりの実践につながる!
- 研修は精神を持って帰ることが大切

発達

- 子どもの発達段階に捉われすぎず、事実を大切にする。
- 子どもの年齢、発達に加えて個々の理解からねらいを立てていく。

挑戦

- 安心から挑戦できる環境作り
- 子どもの小さな挑戦に気づき、たたえることのできる実践者に・・・

拾う・ 見つける

- 子どもが育とうとしている姿を見逃さず拾うことができる大人
- 子どもの事実をひろうこと。(もっと一人ひとりと向き合う時間がほしいと思った)
- 遊びの中の子どもたちの発見、学び、工夫を一つずつ見つけていくことが大切である。

その時

- 「先生見て」と言われた時に見てあげる。(難しい時もあるけれど本当に大事だと思う)





Q. 往還型研修に取り組むことで自分自身が変わったと思うことは？

A. 子どもの「やりたい」声を大事に聞く。形にできるように一緒に考える、試すことを今まで以上に大切にするようになった。

Q. 往還型研修で学んだことを活かして保育実践を積み重ねる中でクラスの子どもの育ちにつながったと感じることは？

A. 「やりたい」ことを発信したり自ら行動したりする力に育ちを感じた。